

2024（R 6 FY）伊平屋村

主要個別事業の概要

事業名：地域公共交通確保維持改善事業 予算額：6,522千円（前年度6,203千円） 担当課：観光交通課

5 次総計の該当箇所

○第4章 安全・安心、快適な暮らしを支えるしまづくり 施策1：交通の整備

事業概要・目的

○本事業は、公共交通機関が整備されていない本村において、村内を巡回するコミュニティバスを運行させることにより、車を持たない高齢者等の交通弱者と呼ばれる住民や来島者等の移動手段の確保を行うための事業である。

【運行概要】

1. 運行区間 前泊港～野甫港～前泊港～田名ガジナ～前泊港
2. 運行日 毎日
3. 運行便数 6便／1日
4. 運賃 一律100円（小学生以上）
※障がい者手帳をお持ちの方は50円
5. 事業主体 伊平屋村

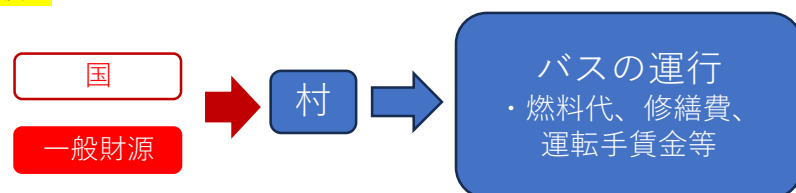


事業イメージ・具体例

○運行ルート



資金の流れ



期待される効果

- 高齢者など交通弱者の移動手段の確保
- 観光客等の村内での移動手段の確保
-

前年度までの成果

- 利用者数3,299名（内訳：一般2,860名、障がい者368名、無償71名）R4.10月～R5.9月
- R4年度（R4.10月～R5.9月）運行経費5,778,971円、運賃収入304,400円
- 関連 R5 FY 地域公共交通計画策定（地域公共交通計画策定調査事業 予算額6,742千円）

事業名：自動車航送コスト負担軽減事業 予算額：67,041千円（前年度67,041千円）担当課：企画財政課

5次総計の該当箇所

○安全・安心、快適な暮らしを支えるしまづくり 【施策1】 交通の整備

事業概要・目的

○離島である本村は、村民の日常生活を含め、教育、医療、冠婚葬祭などの諸行事で沖縄本島へ出かける頻度が多く、沖縄本島と結ぶ唯一の交通機関である船舶は、村民の生活基盤として欠かすことのできない重要な交通機関であるが、フェリーの自動車航送運賃が高い水準にあることから、多くの村民が伊平屋島と沖縄本島（今帰仁村運天港）の両方に自動車を所有し、税金や保有コスト等の二重負担が発生し生活を圧迫している状況である。このため、自動車航送運賃を一部助成することにより、島と本島間を移動しやすい環境を構築することで離島における定住環境の改善を図るため、自動車航送にかかる運賃の支援を実施する。

【実施内容】

村民が沖縄本島へ移動しやすい環境を構築することで離島における定住環境の改善を図るため、自動車航送に係る運賃の支援を行う。

- ・車両航送運賃：3～4m 5,790円（助成額：10,070円）
※助成無しの場合：15,860円
- ・車両航送運賃：4～5m 7,170円（助成額：12,470円）
※助成無しの場合：19,640円

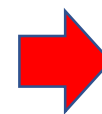
事業イメージ・具体例

【沖縄振興に資する事業】

○当事業は、離島の海上輸送など輸送上の不利性による、人流・物流の面での高コスト構造の改善に向け、交通・生活コストを低減し、住民の負担軽減と島全体の活力向上を図る事業である。

【伊平屋村の取り組み】

○島と島外を結ぶ唯一の交通手段である村営フェリーにおいて、特に移動の大きな支障及び住民生活を圧迫する要因となっている自動車航送運賃コストを軽減するため、その一部を助成する。



資金の流れ

国（沖縄振興特別市町村推進交付金）80%

県（沖縄県町村支援事業補助金）10%

伊平屋村（一般財源）10%



期待される効果

- 住民の航送運賃の低減を図り、移動に伴う負担軽減を図る。
- 児童生徒の大会派遣・旅行や冠婚葬祭・病院など、島民の移動しやすい環境を構築する。

前年度までの成果

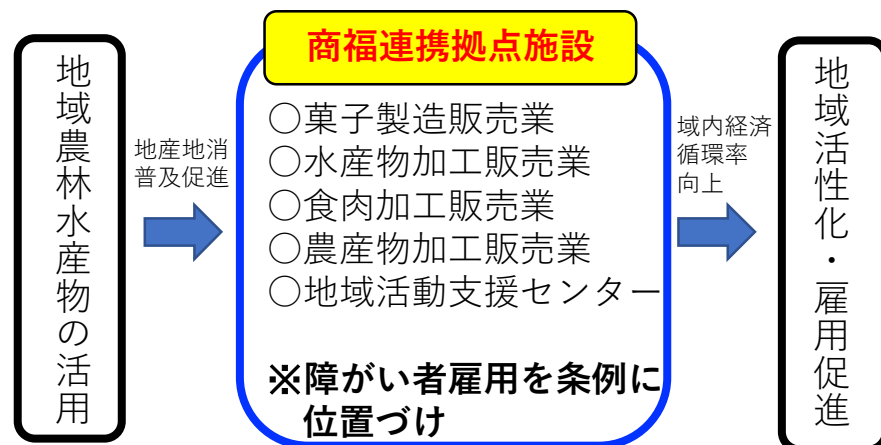
○令和3年度	利用台数	・3～4m	3,979台	・4～5m	1,877台	合計	5,856台（488台／月平均）	
○令和4年度	利用台数	・3～4m	4,700台	・4～5m	1,997台	合計	6,697台（558台／月平均）	※対前年度比 114%
○令和5年度	利用台数	・3～4m	4,886台	・4～5m	1,981台	合計	6,867台（572台／月平均）	※対前年度比 102%

5次総計の該当箇所

第2章 女性と子どもが大切にされすべての住民が安心して暮らす島 施策5：障がい者が安心して生活出来る環境の整備
 第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策6：②観光客一人あたりの消費額を高め域内経済循環の仕組みをつくる

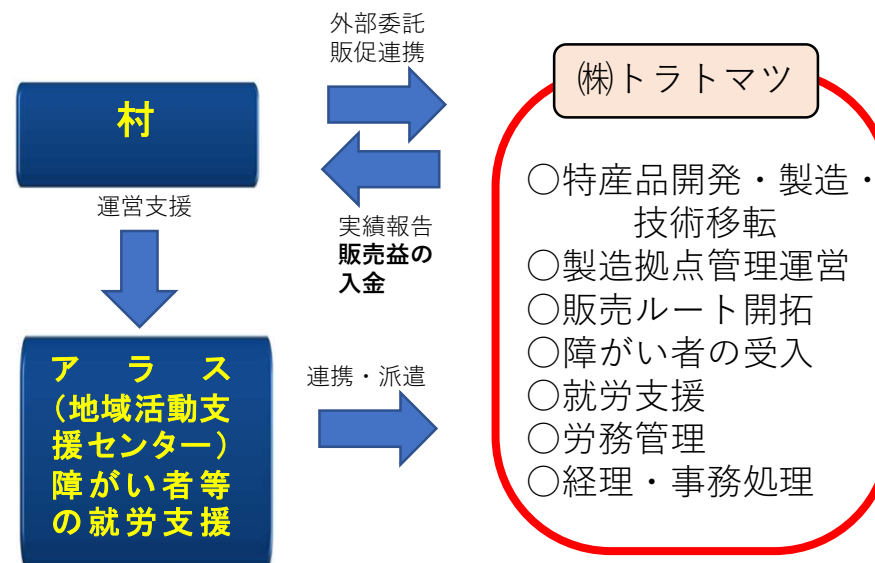
事業概要・目的

○新たに開発した特産品（黒糖入りスイーツ）製造を島外事業者へ外部委託し、販売促進や販路拡大への支援とともに、製造技術や経営ノウハウ、人材育成を推進する。
 また、島内での製造販売拠点にて商福連携（商業と福祉）を推進するため、障がい者等の社会参加を促す取組として雇用創出を図っていく。

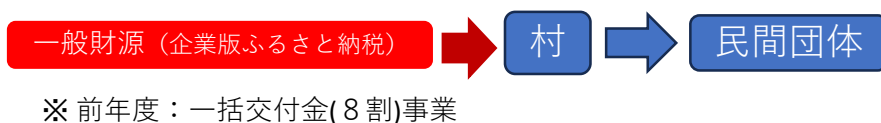


事業イメージ・具体例

- (株)トラトマツ社へ特産品開発・製造・販売を外部委託する。
- 販売益は村へ帰属し障がい者等の活動資金の原資とする。
- 受託者へは売上額の10%をロイヤルティとして支払う。



資金の流れ



期待される効果

- 特産品製造販売をととして障がい者雇用促進、社会参画が期待出来る
- 地産品の活用による高付加価値化と域内経済循環率の向上が期待出来る
- 商福連携の促進による誰一人取り残さない社会の実現を目指す

前年度までの成果

- 特産品売上額1,342千円（11月～3月）
- R5年11月ハード整備完了による入居者決定（新規起業業者3社）
- アラス（地域支援センター）の活動拠点移転・活動開始（R5年12月～）

5 次総計の該当箇所

○第6章 共創・協働のむらづくり 施策3：女性が輝き若者が活躍するしまづくり

事業概要・目的

○女性が輝き若者が活躍するしまづくりを推進するため、若者未来会議を設置し、地域リーダーを育成する。

現状

本村では地域活動や社会活動の場における女性や若者の参画率が低く、住民アンケートでも多くの女性や若者が暮らしにくいと回答している。

課題

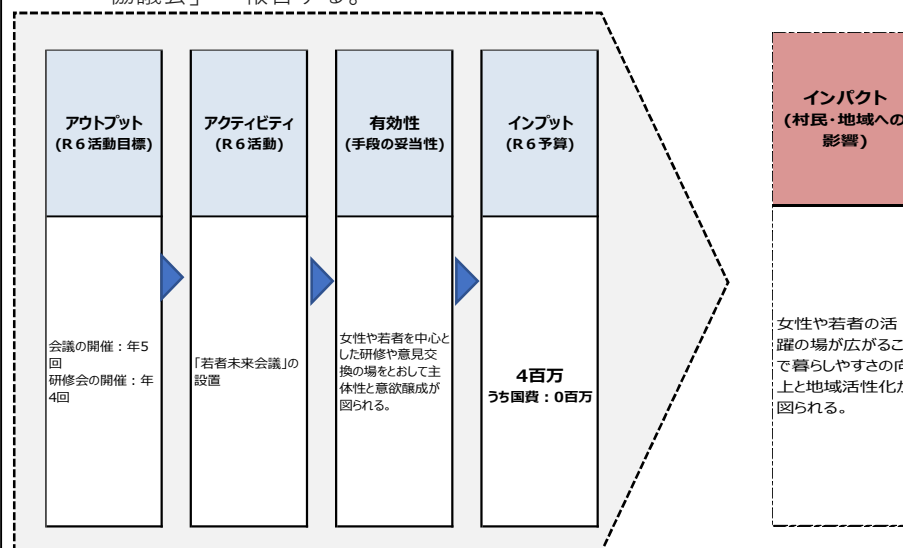
過疎化が進む本村にとって女性や若者の活躍は欠かせないことから、自由に意見、提言できる場の創出による社会進出と地位向上を図る必要がある。

解決策

村内における18歳～45歳までを原則対象に「若者未来会議」を設置し、村の課題や今後の方策について調査・分析し各種研修等の実施や取組支援を行っていく。

事業イメージ・具体例

○「若者未来会議では調査・研究成果を提言として「村産業経済活性化協議会」へ報告する。



資金の流れ

一般財源（企業版ふるさと納税）

村

若者未来会議

期待される効果

- 女性や若者目線での意見が村の施策へ反映される
- 女性や若者の活躍の場が広がることで暮らしやすさが向上する
- 調査研究・研修会等をとおして次世代リーダーが育成される

前年度までの成果

- 若者未来会議の開催4回/年（会員数28名）
- 先進地調査1回（宮崎県高千穂：天岩戸伝説の商品化調査）

事業名：福祉従事者人材育成事業 予算額：5,508千円（前年度5,508千円）

担当課：住民課

5次総計の該当箇所

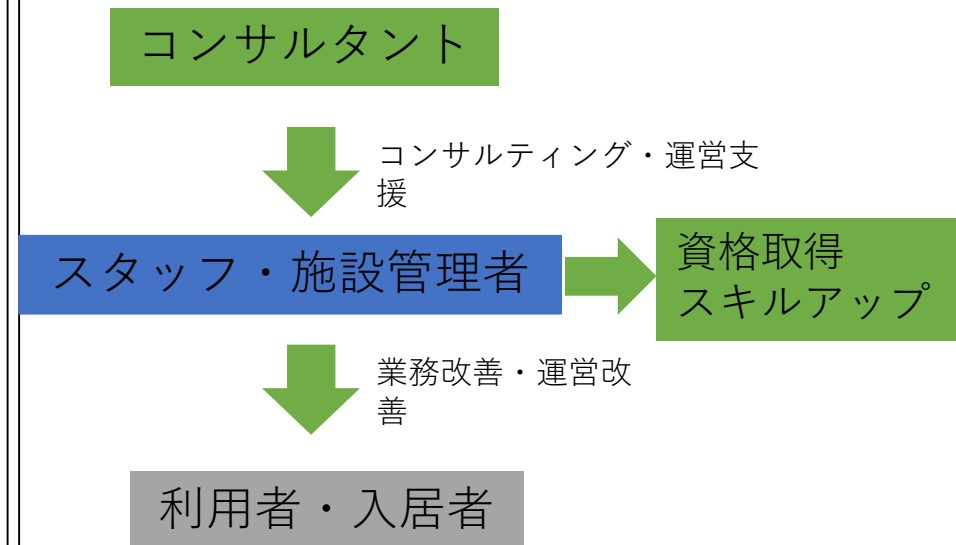
○女性と子供が大切にされ、全ての住民が安心して暮らす島

事業概要・目的

○村では過去に福祉従事者の為に様々な事業で資格取得に向けて取り組んでおり、有資格者を輩出しているが、受け皿である事業所の施設環境の整備が追いついていない状況である。介護事業所の改革や研修実施、収益改善など効率化構築作業を行い、また、施設管理者向けのマネジメント等、施設改善に繋げ、維持向上を行う。

- ・施設・職場環境の改善。
- ・事業所の収益改善・効率化構築を目指す。
- ・自立支援に基づく内容を実践し、講師等を実際の現場へ参画させ実践型のコンサルティングを定期的に行う。また職員の離職防止、モチベーション向上等のアドバイスサポート

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 職員の能力・モチベーションの維持・向上
- 介護サービスの質の向上
- 資格取得者3人以上

前年度までの成果

- 資格取得者合計6人
- 離職者減少

5 次総計の該当箇所

○ 第4章 共創・協働のむらづくり 施策5：障がい者（児）が安心して生活できる環境の整備 働く場所の確保と就労支援

事業概要・目的

当事業は、障がい者の働く場所の確保と就労支援・地域活性化等を目的として、特産品製造拠点施設の整備、ジョブアドバイザー（村在住者2名）の育成を実施。名護市障がい者関係団体協議会に事業委託。

運営体制：現在技術指導者1名による菓子作りの技術支援がおこなわれているが、2～3年を目処に、技術支援を受けた2名が中心となって施設を運営予定。

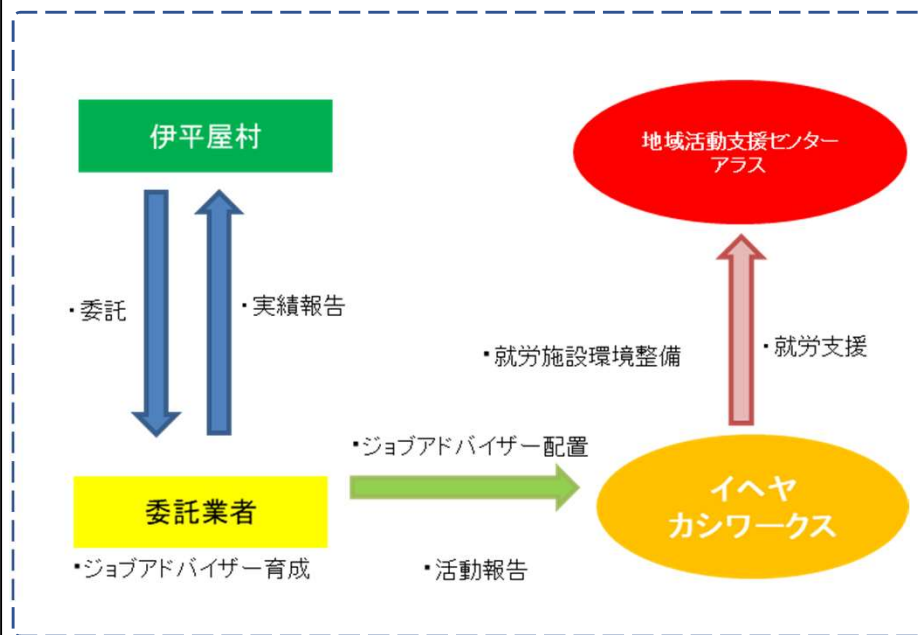
ジョブアドバイザー育成：名護市障がい者関係団体協議会が村在住者2名を雇用し、技術支援を通じて製菓技術を習得させながら、「ジョブアドバイザー」として、作業を実施する障がい者への助言等をおこなえるようにしていく。

施設整備：特産品製造拠点施設を整備し、菓子製作の技術を学ぶ場、梱包作業等をおこなう環境を提供。

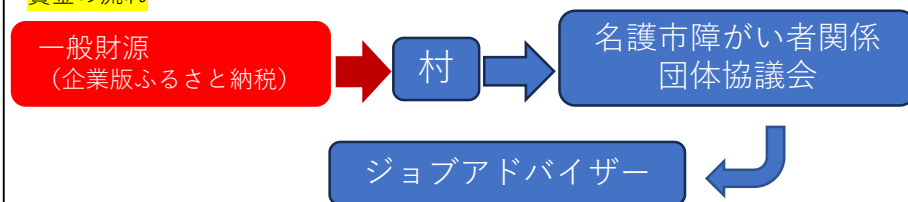
障害者支援

就労内容：パッケージ作成や清掃など、製品製造に関連する業務を担当。
将来的には工賃をもらえるレベルに達するように支援する

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

○利用者が様々な分野の作業に取り組むことで「働く」ことへの喜びに繋げ、社会参加を促進する。

○これまで島外の就労施設に通わざるを得なかった障がい者が、生まれ育った島で就労し、生活するという選択ができるようになる。

前年度までの成果

- ジョブアドバイザーとして村在住者を2名雇用（名護市障がい者関係団体協議会所属）
- タイムスフェアに向けた取り組みとして、3名の利用者がパッケージへのラベル貼りなどの作業を実施。
- 施設の備品、作業環境の整備。

事業名：子ども・子育て支援事業 予算額：9,592千円（前年度：2,303千円）

担当課：住民課

5次総計の該当箇所

○安心して子どもを産み育てることができる環境の整備

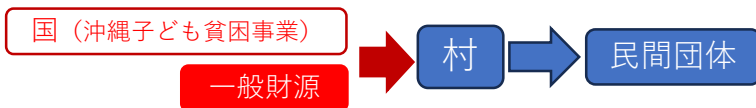
事業概要・目的

- 子ども・子育て世帯訪問支援事業は、家事・子育てに対して不安や負担を抱える子育て家庭、妊産婦、医療児ケア等がある家庭の居宅を、支援員が訪問し、家庭が抱える悩みや不安を傾聴するとともに、家事・子育て等の支援を実施することにより、家庭や養育環境を整え、虐待リスク等の高まりを未然に防ぐことを目的とする。
- 児童手当制度改正実施円滑化事業「こども未来戦略」（令和5年12月22日閣議決定）に基づく児童手当制度の抜本的な拡充の円滑な実施に向けて、業務システムの改修等を行う場合に必要な経費を奨励的に助成を行う。
- やんばる町村ファミリーサポートセンター事業へ加入し利用会員の登録やサポート会員を登録し子育て世帯の両親が島外へ用事や病院受診の際に児童を預けるサービスが受けられることを目的とする。

事業イメージ・具体例

子育てサポーター養成講座を開き、村内で「子育てのお手伝いをしたい人」へ受講予定。受講者12名程
現在、訪問支援の人材は2名だが人員をもう少し増やしていく
知識や実技等、研修を取組み有資格社を増やす。

資金の流れ



期待される効果

- 孤立しがちな家庭への支援で不安や悩みの解消を手助けし総合計画に掲げる安心して子どもを産み育てる事ができる環境整備。
-
-

前年度までの成果

- 医療児ケア在宅支援訪問回数 68回
-

事業名：適正飼養推進化事業
猫条例推進員配置事業

予算額：7,500千円（前年度7,500千円）

予算額：4,361千円（新規）

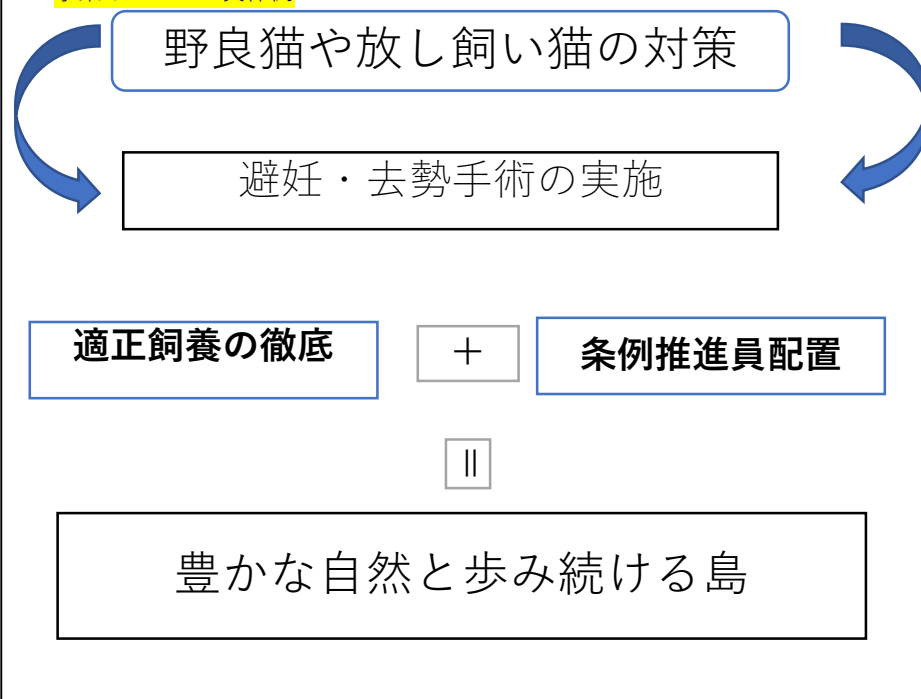
担当課：住民課

5次総計の該当箇所

○第4章豊かな自然と歩み続ける島 施策1自然環境の保全と活用、そして継承：希少野生動植物の保護対策、外来生物対策の推進

○村内では、多頭飼養や避妊去勢手術を行っていない猫が多く存在し、住民への糞尿や生ゴミを荒らす被害が多発している。適正飼養を実施するために環境整備や野良猫や野猫を捕獲を行い、今後は、村の希少生物の保護につながるような取組を行い、また猫飼養条例に基づき、島全体で適正な飼養を行う環境づくりをしていく。条例の継続的な運用を徹底し、観光資源である貴重な自然（環境）を守っていく。

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

伊平屋村の生活環境の向上、自然生態系の保全及び動物愛護の精神をもって、人と動物の共生する社会の実現。

前年度までの成果

- 伊平屋村ネコの適正な飼養及び管理に関する条例の制定（令和5年度9月19日公布）
- 普及啓発用パンフレット・チラシ等の作成、配布

事業名：清掃費 予算額：90,208千円（前年度：91,663千円）

担当課：住民課

5次総計の該当箇所

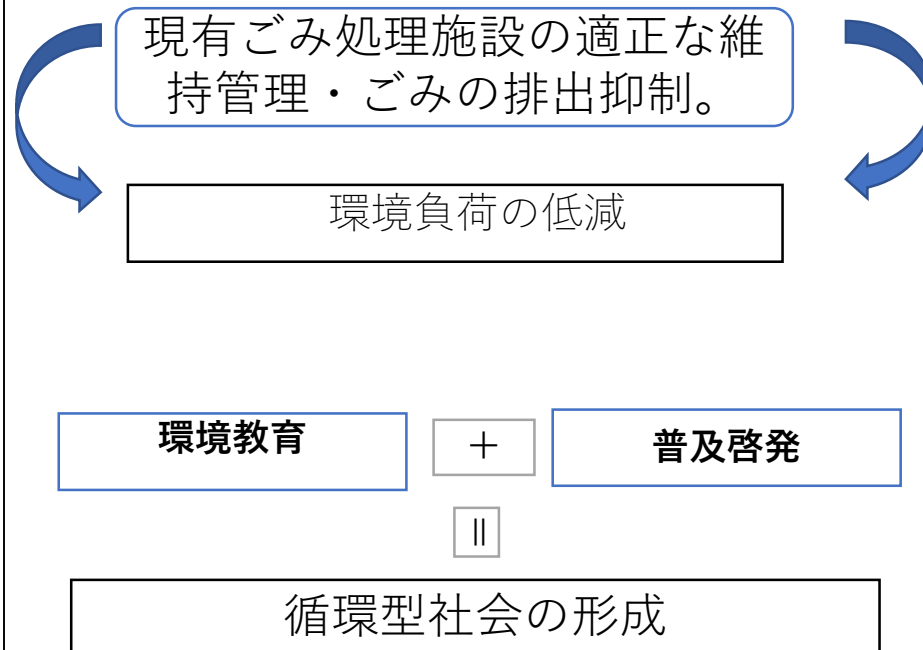
第4章 安全安心・快適な暮らしを支えるしまづくり 施策2：生活環境の整備 廃棄物処理施設の整備

事業概要・目的

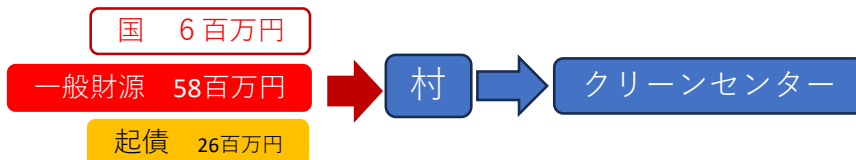
- 塵芥処理：家庭ごみ等の焼却等の費用 64,051千円
- 施設長寿命化のための経費 25,759千円
- し尿処理 158千円
- 廃棄車両処理 240千円

安全安心・快適な暮らしを支えるしまづくりに向けたごみ処理行政の基本的な方向としては、本村は離島という地理的条件から、村内で排出される一般廃棄物は原則として島内で適正に処理・処分を行っていく必要があるため、現有ごみ処理施設の適正な維持管理に努め、安定したごみ処理体制を構築していくものとする。また、ごみの排出抑制・リサイクルの面においては、生活系ごみについては、住民へのごみ減量化へ向けた意識啓発を継続して実施するとともに、もやすゴミ中に含まれる生ごみについて、令和3年度より稼働開始予定の生ごみ処理施設の有効活用に努めていくものとする

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

ごみ処理施設の適正な維持管理に努め、安定したごみ処理体制を構築することにより、安全安心・快適な暮らしを支えるしまづくりの実現に寄与する。

前年度までの成果

- 施設老朽化により環境基準を超過した焼却残渣（約200t）の県外搬出
- 劣悪な施設環境の改善。

事業名：簡易水道整備費 予算額：32,346千円（前年度：27,392千円）

担当課：建設課

5次総計の該当箇所

○

事業概要・目的

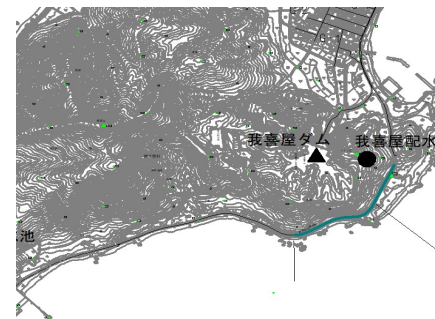
○ 本村の給水区域において配水施設（管路）は昭和58年から布設整備されており、主に硬質塩ビ管が使用されており、普通铸铁管など老朽化と耐震性を満たしていない管がある。
今後の更なる老朽化による漏水等を未然に防ぐとともに、安定した水道事業を展開していくためにも管路の布設替えに併せて耐震化を行う者である。また計装設備の更新を行い長寿命化を図る。
令和6年度は、田名・島尻送水管の布設替えと企業局からの受水量を把握するための計装設備の更新を行う。

田名送水管 HPPEφ100 L=500m
島尻送水管 HPPEφ100 L=714m
伊平屋浄水場（企） 計装設備更新

事業イメージ・具体例



田名送水管 HPPEφ100 L=500m



島尻送水管 HPPEφ100 L=714m

資金の流れ

一般財源 32百万円



村



水道特会

期待される効果

- 耐震化
- 漏水防止

前年度までの成果

- 管布設替えにより漏水が減り有収率が増えた。
-

事業名：農業振興費 予算額：64,314千円（前年度：69,548千円）

担当課：農林水産課

5次総計の該当箇所

○里山・里海を活用した産業が息づく島 施策1 村内産業の活性化に向けた仕組みづくり・施策2 農林水産業の事業化の推進・施策3 農林水産業の新たな担い手の確保と先進化・施策4 環境共生型農林水産業の推進（持続可能な農林水産業の推進）

事業費

1. さとうきび原苗ほ設置事業 1,112千円
2. 農業振興費 5,323千円
3. 中山間地域等直接支払制度事業 7,827千円
4. 干ばつ対策事業 1,200千円
5. 経営所得安定対策等推進事業 1,939千円
6. 農業次世代人材投資事業 5,744千円
7. 農林水産業用廃プラスチック適正処理 2,140千円
8. 堆肥センター運営事業 17,848千円
9. 生ごみ堆肥化施設運営事業 2,792千円
10. 農産物流通条件不利性解消事業 7,894千円
11. 地域計画策定事業 8,923千円
12. その他 1,572千円

事業概要・目的

1. さとうきびの優良種苗の導入を推進し、健全無病な種苗を農家へ配布する。
2. 農業の振興に資すること。
3. 中山間地域の耕作放棄地の増加等による多面機能の低下、集落機能の衰退を防止し、「農業の有する多面機能の発揮の促進法に関する法律」に基づき、農業生産活動の維持・発展の向上を図る。
4. 干ばつ前の事前防止及び被害軽減を予測し地域生産者と協議及び指導等を推進。
5. 戦略作物の本作化を推進し水田のフル活用による直接支払交付金助成を実施。国と農家が直接支払う申請・計画書の作成に必要な手続き支援。
6. 就農前の研修を後押しする資金及び就農開始直後の経営確立を支援する資金の交付を行い、次世代の担い手を育成・確保する。
7. 農業生産及び漁業生産から排出される廃棄物（廃プラスチック）の適正な処理を行い島外へ搬出する。
8. 堆肥センター運営費 9. 生ゴミ堆肥化施設運営費
10. 地理的不利性の改善を図るため、村が定める地域特産物の県内へ出荷コストの負担軽減により、持続可能な定住条件の確保に向けた自律的な取組支援。
11. 人・農地プランから地域計画へ（地域農業の将来の在り方目標地図作成）

資金の流れ



期待される効果

持続的な農林水産業の活性化、安定供給及び消費拡大の促進

前年度までの成果

- プラスチック（R2年度～R5年度）24,690kg R5年度 4,770kg ○新規就農者 H28年度～R5年度（6人）
- 堆肥販売 R5年度 361.84t

事業名：農業集落排水事業 予算額：37,893千円（前年度：37,643千円）

担当課：農林水産課

5次総計の該当箇所

○ 安全安心・快適な暮らしを支えるしまづくり 施策2 生活環境の整備

事業概要・目的

○ 主に維持管理

施設維持管理業務委託	12,000,000
施設台帳保守等	1,320,000
水質検査	182,000
公営企業支援委託	3,200,000
修繕費等	3,191,000
償還金	18,000,000
計	37,893,000円

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 公共用水域の水質保全
- 農村生活環境の維持・改善
- 公衆衛生環境の向上

前年度までの成果

- 家庭排水及び工場排水の処理による水域の環境保持
- 生活環境、公衆衛生の向上

事業名：病害虫防除事業 予算額：7,409千円（前年度：7,798千円）

担当課：農林水産課

5次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策2：農林水産業の事業化の推進

事業概要・目的

○作物の安定的な生産性の向上と農家所得の向上を目指し、さとうきびの収量低下の原因となる病害虫の被害を防ぐため防除駆除を実施する。

事業期間：平成24年度～13年度

総事業費：145,854千円（うち国費：116,679千円）

【目的】

さとうきびの収量低下の原因となる病害虫の被害を防ぐため防除駆除を実施し、生産農家の安定的な生産量確保につなげる。

【R6年度成果目標】

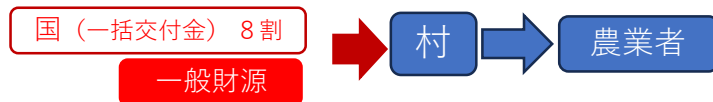
- ・さとうきびの生産量 5,110t
- ・病害虫の発生件数の抑制 平均6.00匹／日以内

事業イメージ・具体例

○さとうきび病害虫（イネヨトウ）に対する薬剤を設置する。



資金の流れ



期待される効果

- 病害虫（イネヨトウ）によるさとうきびほ場の被害軽減
- さとうきびの安定的な生産量の確保
- 農家所得の向上

前年度までの成果

- さとうきびの生産量 3,931t（令和5年度実績）
- 病害虫発生件数 平均0.20匹／日（令和5年度実績）

5次総計の該当箇所

第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策2：農林水産業の事業化の推進

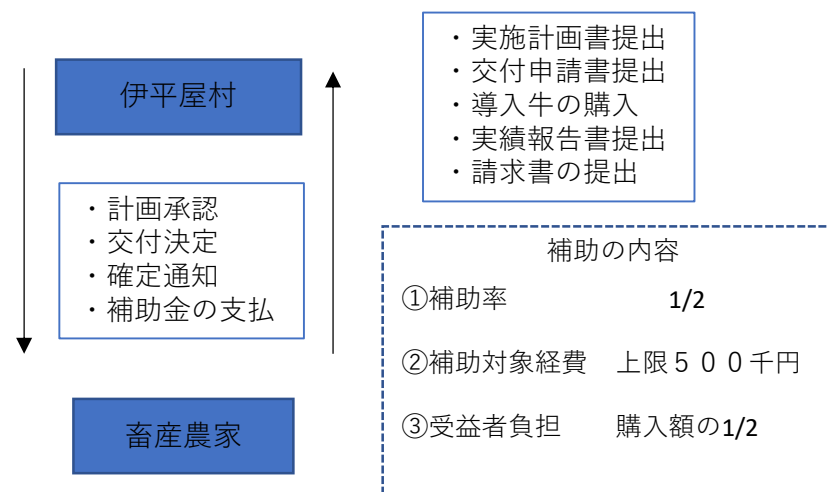
事業概要・目的

○本事業は、黒毛和牛（母牛）のセリ購入費用について、1頭当たり500千円を上限として購入額の1/2を助成する。

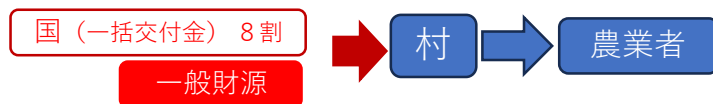
○本村の肉用牛生産組合は15戸の生産農家で構成され、母牛飼育頭数は200頭程度である。生産者努力で購入または自家保留等により、増頭傾向にはあるが、母牛の高齢化等により、母牛の更新を農家努力で行うには困難な状況にある。そこで、優良雌牛導入を支援し、生産農家の経営の安定化を目指していく。

事業イメージ・具体例

○本事業は、黒毛和牛（母牛）のセリ購入費用について、1頭当たり500千円を上限として購入額の1/2を助成する。



資金の流れ



期待される効果

畜産農家の経営の安定化

前年度までの成果

○平成26年度～令和5年度 導入実績 114頭

○

事業名：農業農村事業計画策定事業 予算額：7,128千円（新規）

担当課：農林水産課

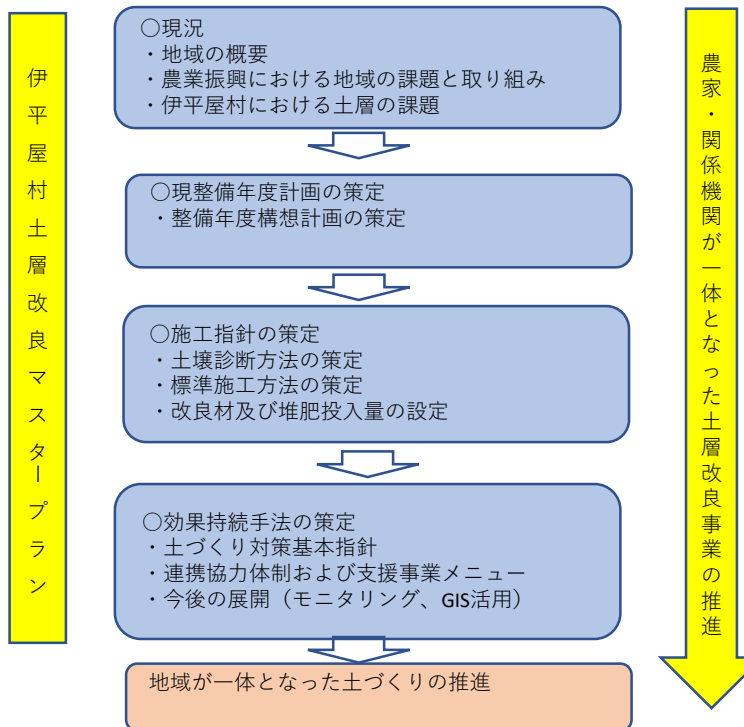
5次総計の該当箇所

第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策2：農林水産業の事業化の推進

事業概要・目的

○ 本事業は、伊平屋村の現状把握及び土層改良工の基礎諸元を整理し、伊平屋村における土層改良の総合的な指針となる「土層改良マスタープラン」を策定することを目的とする。

令和6年度 伊平屋村土層改良マスタープラン策定業務委託 7,180



資金の流れ



期待される効果

○土づくりのための基本的な土壌管理の方法及び適正な土壌管理の推進

前年度までの成果

○なし

事業名：田名池再生計画事業 予算額：11,190千円（前年度[補正]10,000千円） 担当課：農林水産課

5 次総計の該当箇所

○第3章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策4：環境共生型農林水産業の推進（持続可能な農林水産業の推進）

事業概要・目的

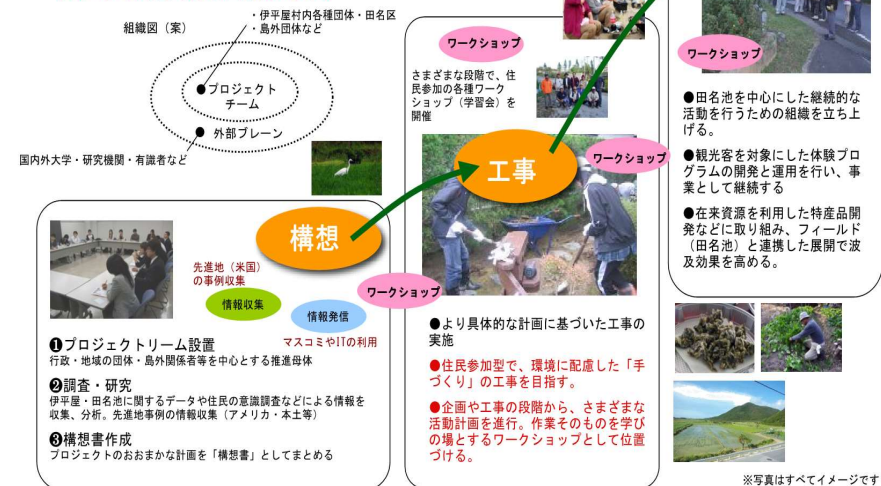
○本事業は、本村北側に位置する田名池（26h）を地域資源として位置づけ、環境保全と親水性を高めるための島内外ボランティア活動拠点や仕組みづくりを構築し、環境教育活動による交流・関係人口の創出と持続可能なエコアイランドの実現を目指すものである。



事業イメージ・具体例

これからの行程

住民参加型の工事を実施し、地域自らが継続的な運営に関わる地域事業を目指します。



資金の流れ

一般財源
（企業版ふるさと納税）



村



民間団体

期待される効果

- 田名池の機能性・景観性の復元
- 活動をととした交流・関係人口の創出
- 新たな観光メニュー・アクティビティの開発による雇用創出

前年度までの成果

- 検討委員会の設置
- 環境調査の実施
- 海外（米国）大学生ボランティア活動の受入実施

事業名：米崎海浜公園体験交流拠点施設 予算額：5,379千円（前年度：4,085千円） 担当課：観光交通課

5次総計の該当箇所

○第4章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策5：体験・交流型観光コンテンツの充実による観光交流産業の振興

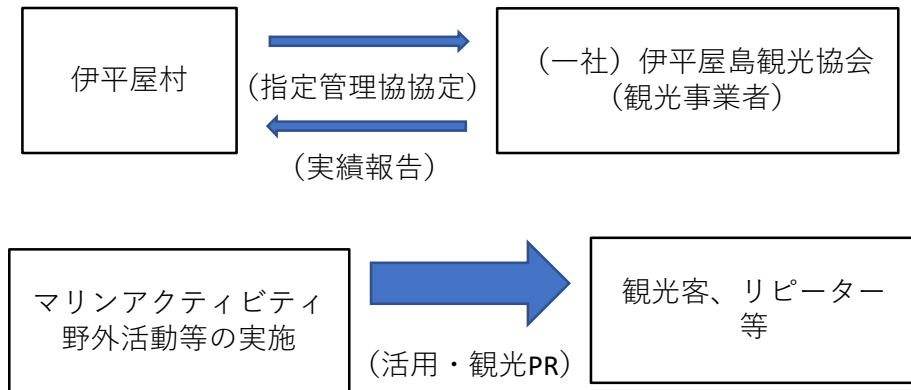
事業概要・目的

○ 本事業は、マリナクティビティやキャンプを行うことができる施設である、米崎海浜公園体験交流拠点施設（いへや愛ランドよねざき）を活用しながら、伊平屋村を訪れる観光客の満足度向上を図ることやリピーター7の獲得を目的として実施する事業である。また、施設の維持管理等を行うために、令和5年4月1日から令和8年3月31日まで（一社）伊平屋島観光協会を指定管理者としており、指定管理協定書を交わしている。

事業内容

- （1）マリナクティビティ、野外活動等の実施
- （2）施設の維持管理等

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 伊平屋村の認知度向上、イメージアップ
- リピーターの獲得
-

前年度までの成果

- 利用者数 3,212人
- クルーズ船寄港

事業名：商工観光産業支援事業

予算額：16,176千円（前年度：16,594千円）

担当課：観光交通課

5次総計の該当箇所

○第4章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策5：体験・交流型観光コンテンツの充実による観光交流産業の振興

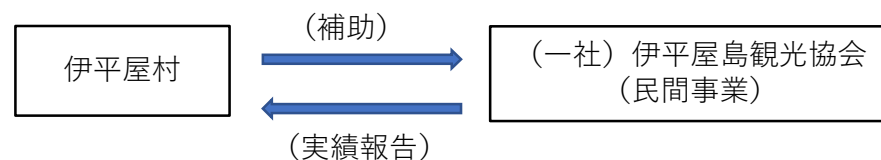
事業概要・目的

○ 本事業は、民泊利用者へのサービス向上を実施するため、体験プログラムや観光PRの促進により認知度のイメージアップ等、民泊利用者の増加を図ることを目的とし、（一社）伊平屋島観光協会の活動補助を行う事業である。

事業内容

- （1）観光振興を円滑に推進するための組織構築
- （2）体験型プログラムの開発及び調整
- （3）体験型民泊事業の情報発信、集客誘致活動
- （4）その他一般観光の推進

事業イメージ・具体例



（一社）伊平屋島観光協会を中心に、村観光交通課・村内経済団体・民間事業者・NPO等の村おこし団体・地域住民等が協力し下記業務を行う。

- ・地域資源を活用した商品・サービスの開発と販売
- ・各種プログラムの品質管理、安全管理
- ・地域情報を一元化し、インターネットや紙媒体を使って情報発信
- ・行政への企画提案と情報共有
- ・各種受託事業・補助事業（イベント運営、調査研究、観光振興に係る地域づくり事業等）

資金の流れ



期待される効果

- 民泊利用者、入域観光客数の増加
- 伊平屋村の認知度向上、イメージアップ
- リピーターの獲得

前年度までの成果

- 民泊利用者数 2,078人、18校
- 受入民家 46軒
- 教育旅行、離島体験プログラムの受入、クルーズ船受入、ほか研修会等参加

事業名：誘客イベント推進事業 予算額：62,797千円（前年度：46,700千円）

担当課：観光交通課

5次総計の該当箇所

○第4章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策5：体験・交流型観光コンテンツの充実による観光交流産業の振興

事業概要・目的

○本事業は、伊平屋村を訪れる観光客の満足度向上を図るため、村内外においてイベントの開催支援等を行い、観光客等の交流・関係人口の増加、商工業と観光産業の連携強化を目的として実施する事業である。

以下のイベントの開催及びイベント開催に係る運営費を支援する。

【イベント開催委託：7件】

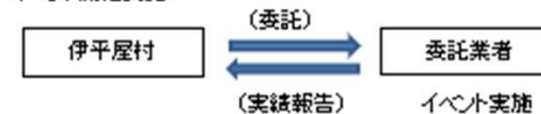
- ①ウェルカムイベント（4月～5月）
- ②沖釣り大会（7月）
- ③キャンプ大会（7月）
- ④特産品PR促進事業：道の駅許田（通年）
- ⑤特産品PR促進事業：羽地の駅（通年）
- ⑥伊平屋ヴィレッジトレイル（1月）
- ⑦スポーツイベント推進事業（2月）

【イベント開催支援：2件】

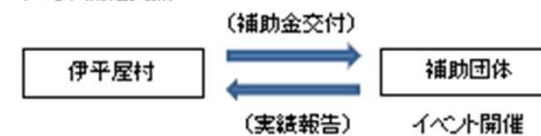
- ①いへやまつり（7月）
- ②伊平屋ムーンライトマラソン（10月）

事業イメージ・具体例

< イベント開催委託 >



< イベント開催支援 >



入域観光客数の増加



資金の流れ



期待される効果

- 入域観光客数の増加
- 伊平屋村の認知度向上やイメージアップ
- 島の観光資源を生かした事業展開

前年度までの成果

- 入域観光客数22,360人
- イベント開催委託 7 件、開催支援 2 件
ウェルカムイベント1,034名、沖釣り大会31名、キャンプ大会50名、道の駅許田4,059,549円、羽地の駅412,795円、ヴィレッジトレイル280名、スポーツイベント（バレー大会）12チーム118名、いへやまつり約1600名、伊平屋ムーンライトマラソン821名

事業名：催事出展支援事業 予算額：11,143千円（前年度：18,976千円）

担当課：観光交通課

5次総計の該当箇所

○第4章 里山・里海を活用した産業が息づく島 施策1：村内産業の活性化に向けた仕組みづくり

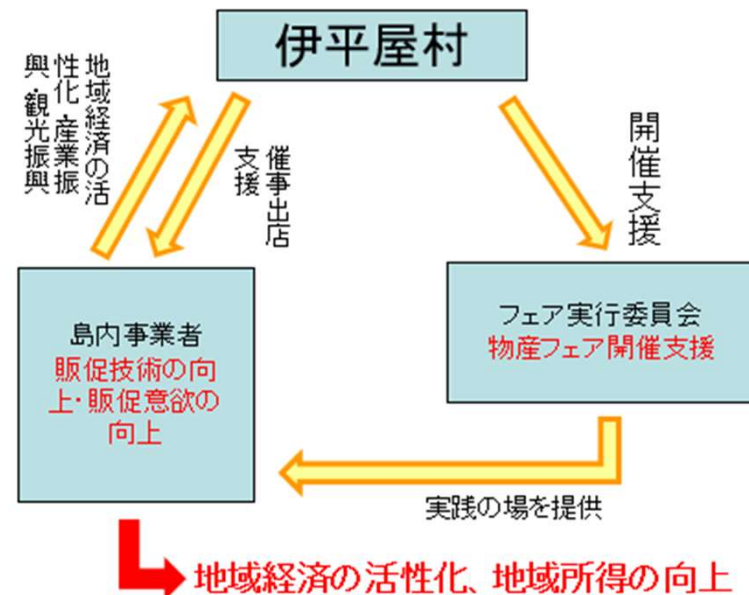
事業概要・目的

○本事業は、地域経済の活性化、地域所得の向上を図るため、島外催事出店への旅費等を補助することで、事業者の負担軽減と販売促進能力・技術の向上と販路拡大へのモチベーション向上を図る。また、村独自の物産フェアを開催し、観光と特産品PRを推進する。

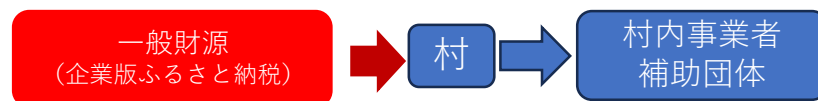
【年間催事予定】

- ・ありんくりん市（おきなわの産業まつり内）
- ・離島フェア
- ・やんばるの物産展
- ・物産フェア
- ・その他催事等

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 販促能力及び技術の向上と販路拡大へのモチベーション向上
- 地域経済の活性化、地域所得の向上

前年度までの成果

- 催事出店実績：ハッピーモア市場（宜野湾市）、ありんくりん市、離島フェア、やんばるの物産展、伊平屋 観光・物産フェア
- 伊平屋 観光・物産フェアでの売上高：8,456,730円

5次総計の該当箇所

○第4章 安全・安心、快適な暮らしを支えるしまづくり 施策1：海上交通の整備

事業概要・目的

- 本事業は、フェリーのオンライン予約システム開発を通じて、利便性の高いサービスを提供することにより、乗船客のニーズへの柔軟な対応を進めることが目的である。
- 【事業実施】
- ・オンライン予約システム構築業務
 - ・オンラインシステム開発業務

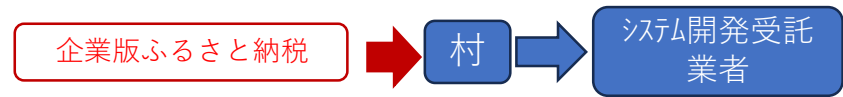
事業イメージ・具体例

○開発業務

アプリケーション開発	フェリーの乗船券（乗船権）を日時を指定した上で予約・購入を行うことができるクラウド上のアプリケーションプログラム開発。
各種取得データ提供	本システム開発後、一定期間のテスト稼働（実証）を行い、得られた各種データをISCOに提供、必要に応じて実証結果報告書の作成に協力する。



資金の流れ



期待される効果

- 販促能力及び技術の向上と販路拡大へのモチベーション向上
- フェリーチケット購入のためのオンライン予約システムのプロトタイプ版開発により次年度本格的運用に向けた環境整備がなされ、利用者のニーズに即したシステムが提供される。

前年度までの成果

○本年度からの新規事業であることから成果無

事業名：海岸漂着物対策事業 予算額：9,537千円（前年度：10,543千円）

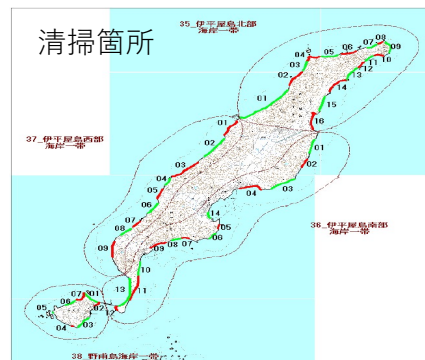
担当課：建設課

5次総計の該当箇所

○ 豊かな自然と歩み続ける島（美しい景観の形成）

事業概要・目的

- 目的：伊平屋村内の海岸漂着物等の回収・処理を行うことにより、海岸における良好な景観及び環境の保全を図る。
- 概要：伊平屋村内海岸一円の景観・環境保全のため、村内清掃委託団体に漂着物の回収・分別をさせ、産業廃棄物運搬業者許可を受けた民間業者に委託し村内から処分場まで運搬・搬入をさせ、産業廃棄物処理許可を受けた民間業者にて処分を行う。
回収した漂着ゴミの種類にかかわらず、本事業で回収した漂着物は全て島外処理する。



事業イメージ・具体例

観光地イメージアップ推進事業

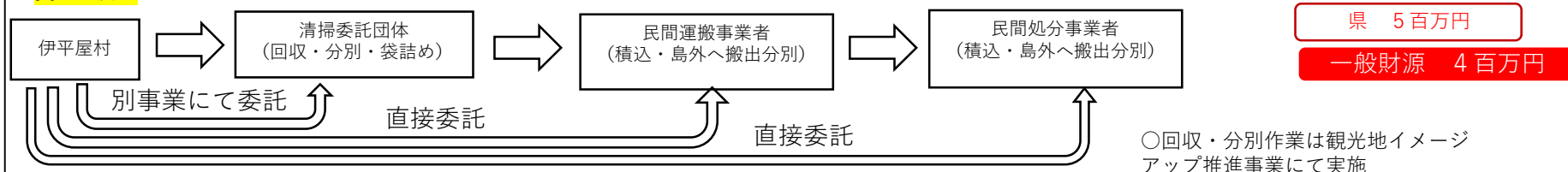


海岸漂着物対策事業



島外処理

資金の流れ



期待される効果

- 内の海岸漂着物等の回収・処理を行うことにより、海岸における良好な景観及び環境の保全を図る。
- 海岸漂着物ゴミ処分量 目標 49.2t

前年度までの成果

- 実施海岸延長 23913m
- 漂着ゴミ処分量 44.7t

事業名：観光地イメージアップ推進事業 予算額：30,156千円（前年度：31,847千円） 担当課：建設課

5次総計の該当箇所

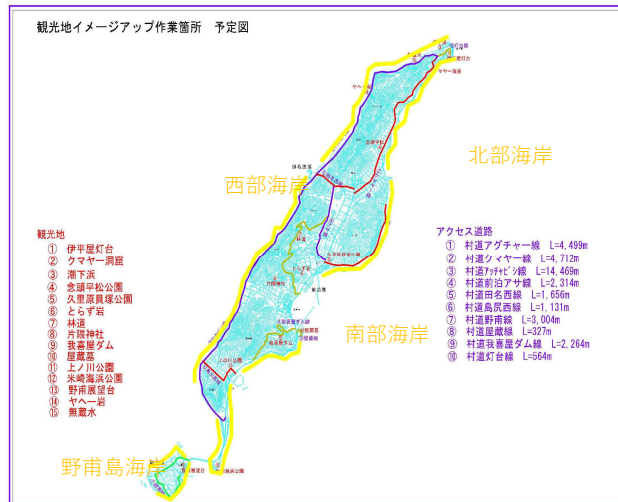
○豊かな自然と歩み続ける島（美しい景観の形成）

事業概要・目的

○魅力的な観光地づくりの推進を目的とし、海浜、道路、公園などの観光客が利用する公共施設等の美化、清掃を行い、魅力的な観光地としての景観形成を図る。

○事業内容

- ・観光地：15カ所
- ・アクセス道路：10路線
（県道・農道）
- ・海浜：村一円



事業イメージ・具体例

伊平屋 → 委託 → 村内団体 → 海浜、道路、公園の清掃



資金の流れ

国（一括交付金）8割

一般財源

村

民間団体

期待される効果

- 観光施設等の環境整備による利便性向上や観光客の安定確保が図られ観光産業の振興に資する。
- 継続的に美化清掃を実施し、観光地としての魅力向上を図る。

前年度までの成果

- 観光地や道路、大多数が利用する公共施設等の除草や伐木を行い年間を通し美化を保つことができた。
道路（県道・村道）：10路線 観光地：14箇所
- 海岸漂着ゴミの収集分別により海岸景観の保全を図ることができた。
村一円回収漂着ゴミ総量：44.7t

事業名：米崎海浜公園機能強化整備事業 予算額：435,024千円（前年度：179,854千円） 担当課：建設課

5次総計の該当箇所

○里山・里海を活用した産業が息づく島

事業概要・目的

○伊平屋村米崎海浜公園「いへや愛ランドよねざき」は、透明度が高く美しいビーチに囲まれ、海水浴やマリナクティビティといった海洋レジャーに加え、ビーチの目の前でキャンプが楽しめる村内有数の人気観光スポットである。

しかし、近年、3密の回避といったコロナウイルス感染症等の社会情勢に起因する価値観の変化や、繁忙期におけるキャパシティ不足、海浜公園特有の塩害等を受け、施設の魅力や利便性の低下がみられることから、観光拠点である米崎海浜公園に所在する施設の改修・新設等により施設機能の強化を行い、安全・安心で持続可能かつ魅力ある観光地形成を図る。

当事業によって、ブルーツーリズム・ウェルネスツアー等の新たな体験プログラムの実施が可能となり、利用客の増加に伴う村内の産業振興や、沖縄県北部地域の離島周遊による観光客偏在の解消等を通じて、北部地域全体の発展に寄与するものである。

事業イメージ・具体例



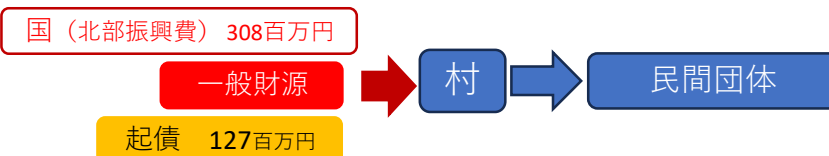
全体整備計画



R6整備計画場所

整備イメージ

資金の流れ



期待される効果

○“原風景の島”のブランド強化を図るとともに、海浜公園利用者が安全かつ容易に砂浜にアクセスできるようになる。

前年度までの成果

- 海岸整備、園内設備に係る実施設計
- 北側海岸工事の実施

5 次総計の該当箇所

○第4章 安全で快適な暮らしを支えるしまづくり 施策1：交通の整備

事業概要・目的

○コロナ禍後の本村観光客数は、個人旅行の増加や民泊、修学旅行の受入再開などにより、順調に推移しており、また、コロナ禍前と比べ客層や観光形態も変化し、電動自転車や電動キックボードの普及も相まって移動手段も多様化している。しかしながら、従前から受け入れてきた民泊や修学旅行及びナイトマラソン等のイベント時においては、幹線道路や集落内での街路灯不足により、域内での安全性の確保が指摘されていた状況であった。

○本事業では、村内の幹線道路や集落道及び観光スポット等における、夜間の安全性を確保を目的とした街路灯整備を行う。また、併せて災害時における防災機能の強化を目的に、ビーチや港周辺、避難道周辺に監視カメラや雨量風速計および太陽光発電街路灯を整備する。それにより、観光客等への安心・安全性が確保され、地域イメージの向上による観光客の増加を目指す。

【取組詳細】

- ①スマートLED街路灯 500基設置（予定）
- ②太陽光発電街路灯 41基設置（予定）
- ③監視カメラ・風速・雨量計の設置（各集落避難ルート・米崎・港湾等に設置予定）

事業イメージ・具体例

スマートLED街路灯設置

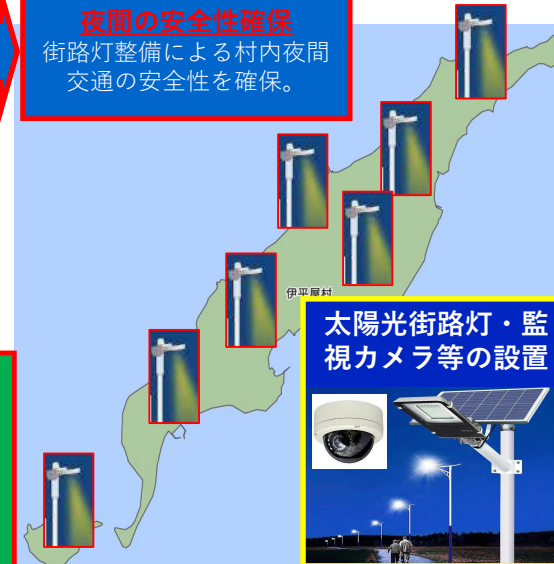


夜間電気代削減とCO2排出量削減

GPS機能及びリモートによる制御・管理できる機能によって、時間帯及び季節毎の適正な照度管理を行うことで省電力化の推進と電力ロス対策、光害抑制を図り、自然環境への負荷を低減する。

夜間の安全性確保

街路灯整備による村内夜間交通の安全性を確保。



太陽光街路灯・監視カメラ等の設置



防災機能の強化 太陽光発電街路灯や監視カメラ、風速・雨量計の設置により避難道や観光スポット等の防災機能の強化を図る。

資金の流れ

国（離島活性化）316百万円

一般財源

起債 91百万円

村

民間団体

期待される効果

- 観光地等における夜間の安心・安全性の確保
- 地域イメージ向上による入域観光客数の増加

前年度までの成果

○スマートLED街路灯設置工事 6工区分（292基）を発注。（主に県道およびアッチャビン線、クマヤー線が対象路線）

5次総計の該当箇所

○第4章 安全で快適な暮らしを支えるしまづくり 施策1：交通の整備

事業概要・目的

○観光利用が少ない西側海岸線においては、繁殖力が旺盛な外来植物により在来植物の生育が犯され、枯れ木等も多く良好な景観を阻害しており、安全面でも危惧している状況にある。また、西側海岸線の維持管理について、人口減少・高齢化による労働人口減少に伴う地域ボランティアの負担が増加し、移住者等の定住妨げの要因の一つとなっている。

○そこで、外来植物の繁殖を抑制し、在来植物の生育環境の確保と美しく持続可能な景観形成を推進し、海に囲まれた離島村の独自の資源を活用した観光振興を図る。また、管理性に優れた景観環境の構築により、地域住民の作業負担を軽減し、定住しやすい環境構築による定住促進を図る。

【取組詳細】

- ①外来植物および雑草の伐開除根および管理性に優れた在来植物の植栽
- ②安全面および景観に考慮した付属物等の設置（木製防護柵、カラー舗装等）
- ③利便性向上を図るための施設整備（駐車場、トイレ・シャワー施設、展望台等）

事業イメージ・具体例

島内西側の状況



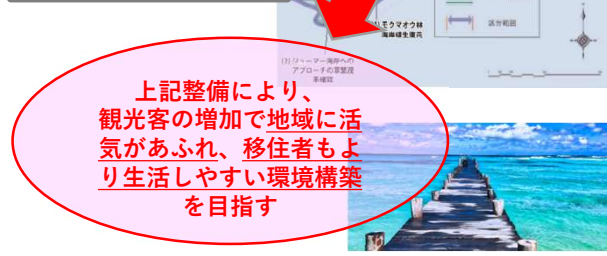
美しく持続可能な景観形成



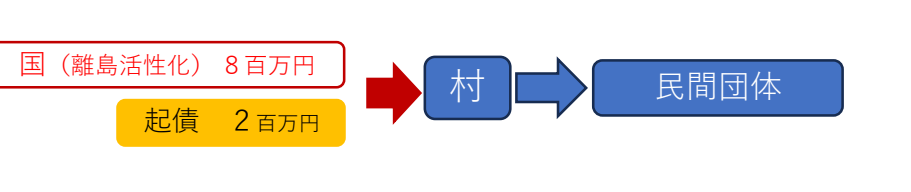
利便施設の整備



上記整備により、観光客の増加で地域に活気があふれ、移住者もより生活しやすい環境構築を目指す



資金の流れ



期待される効果

- 観光地イメージ向上による入域観光客数の増加
- 管理性に優れた景観創出と利便性、快適性の確保による、持続可能な観光地形成に寄与
- 地域住民の作業負担を緩和し、住みやすい環境構築による、移住者の定住促進に寄与

前年度までの成果

-
-

事業名：前泊港埋立調査事業 予算額：4,004千円（新規）

担当課：建設課

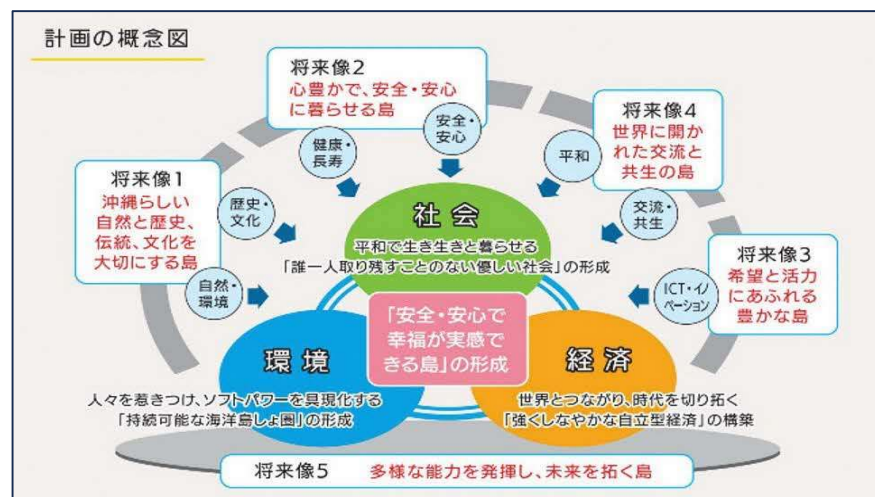
5次総計の該当箇所

○ 豊かな自然と歩み続ける島（ゾーニング 土地利用区分明確化）

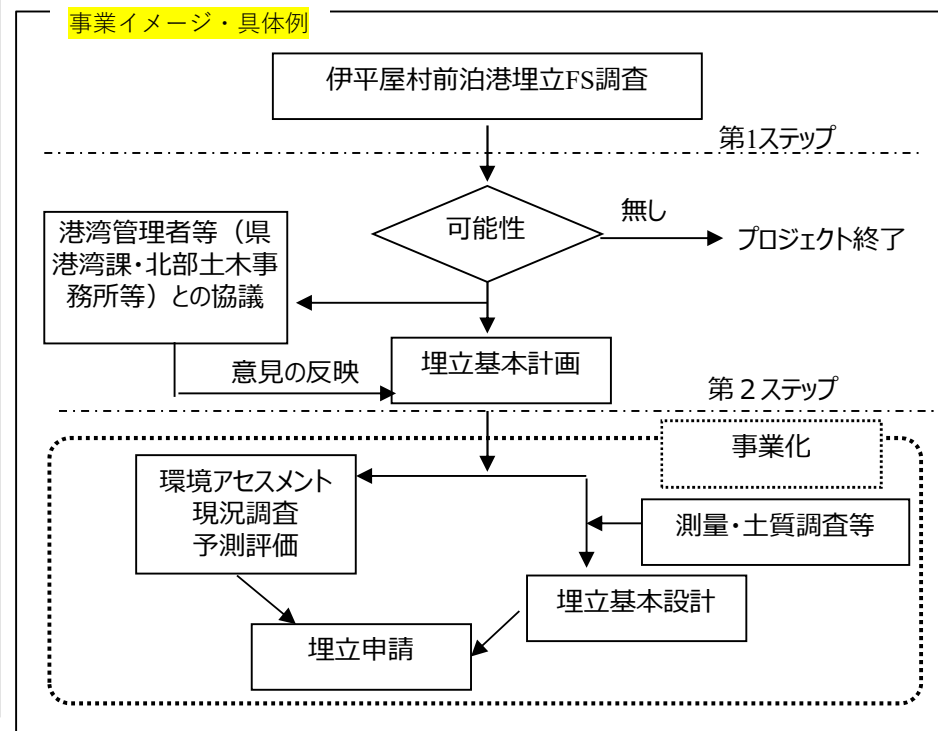
事業概要・目的

○ 伊平屋村を取り巻く経済情勢も踏まえて、土地需要・講話需要を確認、需要が確認された土地利用や港湾利用に対応した新たな構想案を作成し、その整備手法、概算費用から事業化の可能性を検討することを目的として実施する。

計画の概念図



事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 公共用地の確保
- 災害対策を考慮した公共施設の高台移転
- フェリー車両甲板の安全確保

前年度までの成果

- 令和5年度伊平屋村前泊港埋立FS（フィージビリティ）実現可能性調査を実施
-

事業名：公営住宅等ストック総合改善事業 予算額 5,789 千円（前年度：31,003 千円） 担当課：建設課

5 次総計の該当箇所

○ 安全・安心、快適な暮らしを支えるしまづくり

事業概要・目的

○本村では村営住宅33棟117戸を管理しており、空き室がない状況であるため、退去者が出た時点で早急な改修工事が必要とする。
村営住宅はRC造であり、雨漏りやコンクリートの劣化、内部においても30年以上が経過し劣化が著しく住環境に多大な影響を及ぼす。
また、20年以上が経過している住宅室内においては、フローリング及び建具等の劣化が著しく住環境に著しく支障をきたしており、退去時に長寿命化改善の改修工事を行い建物の長寿命化を図る。

○事業内容

外壁・屋根防水改修 1 棟（3号棟2戸）

内部改修 4室

21号棟 101号室

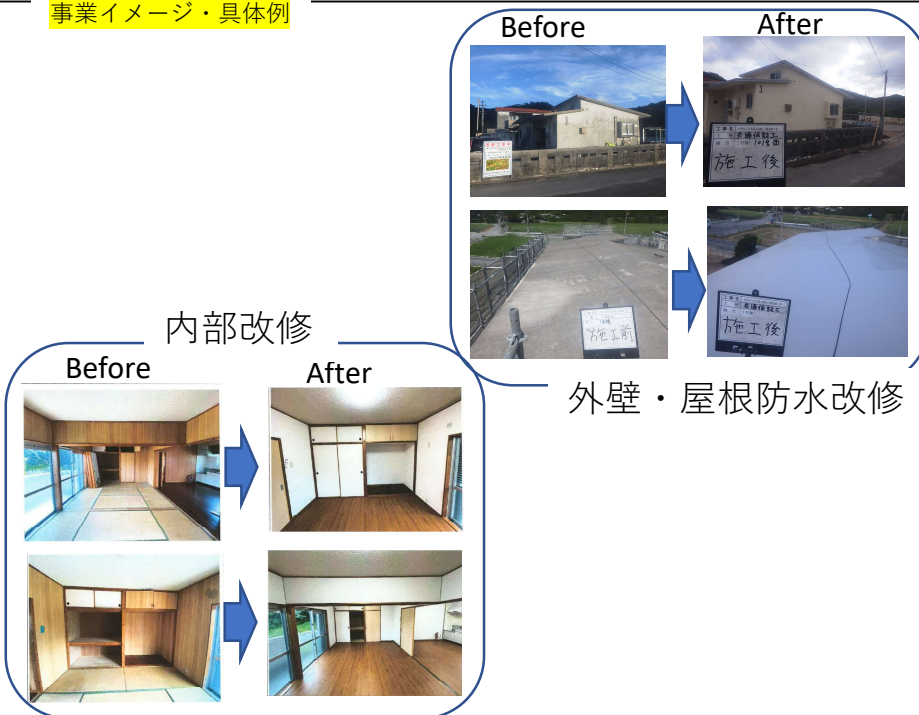
12号棟 102号室

201号室

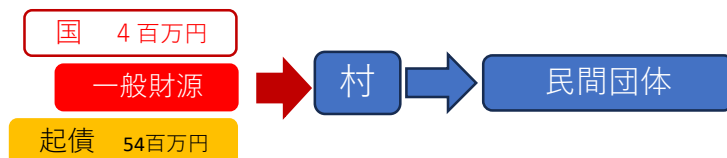
202号室



事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 雨漏りに夜生活の不具合が無くなり快適性が保たれる
- 建物の長寿命化が図られる。
- 今後の建て替えまでの平準化が図られる

前年度までの成果

- 島尻村営住宅4棟（2戸） 外壁・屋根防水 102号室内部改修
- 野甫村営住宅5棟（2戸） 外壁・屋根防水 101号室・102号室内部改修
- 前泊村営住宅12棟4戸 外壁・屋根防水

- 前泊村営住宅16号棟 102号室・201号室 内部改修
- 前泊村営住宅21号棟 101号室内部改修

事業名：消防費 予算額 167,985 千円（前年度：10,876 千円）

担当課：総務課

5 次総計の該当箇所

○ 第4章 女性と子どもが大切にされ、すべての住民が安心して暮らす島 施策9 安全・安心で強靱なしまづくり

事業概要・目的

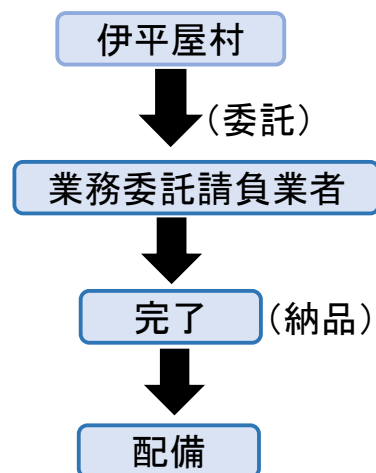
- 非常備消防費（消防団活動費） 11,284 千円
- 消防施設費（消防施設の運営・管理費） 103,460 千円
- 緊急体制強化事業（コンパクト消防車両整備） 48,344 千円(新規)
- 防災行政無線整備事業（防災行政無線設備の更新） 4,897 千円(新規)

○ 新規事業に関しては【緊急体制強化事業】【防災行政無線機能強化事業】を予定しており、経年劣化した消防車両をコンパクト且つ放水機能に優れた車両に更新し村消防団の機能強化を図る。また防災行政無線を R5～R7 にかけて整備する事で、防災無線の感度向上、スピーカーの機能強化、SNS 等を通じて防災情報を発信し村民のみならず観光客も安全・安心に暮らせるしまづくりの実現を目指すものである。

事業内容

- ① 新消防車両整備(コンパクトタイプ)
- ② 防災行政無線機能強化事業
 - R5：操作卓の更新・SNS 配信機能追加
 - R6：村内子局の更新
 - R7：各世帯戸別受信機の更新

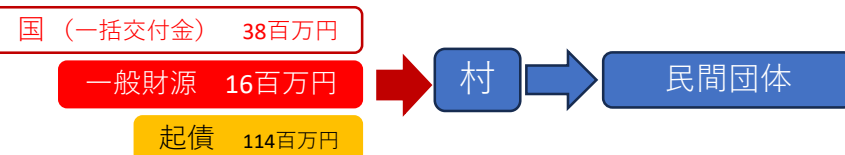
事業イメージ・具体例



《防災体制の強化》



資金の流れ



期待される効果

- 村消防団の機能強化
- 防災情報発信の機能強化
- 村全体の防災力向上

前年度までの成果

-
-

事業名：幼稚園預かり保育支援事業 予算額 3,484 千円（前年度：4,439 千円）

担当課：教育委員会

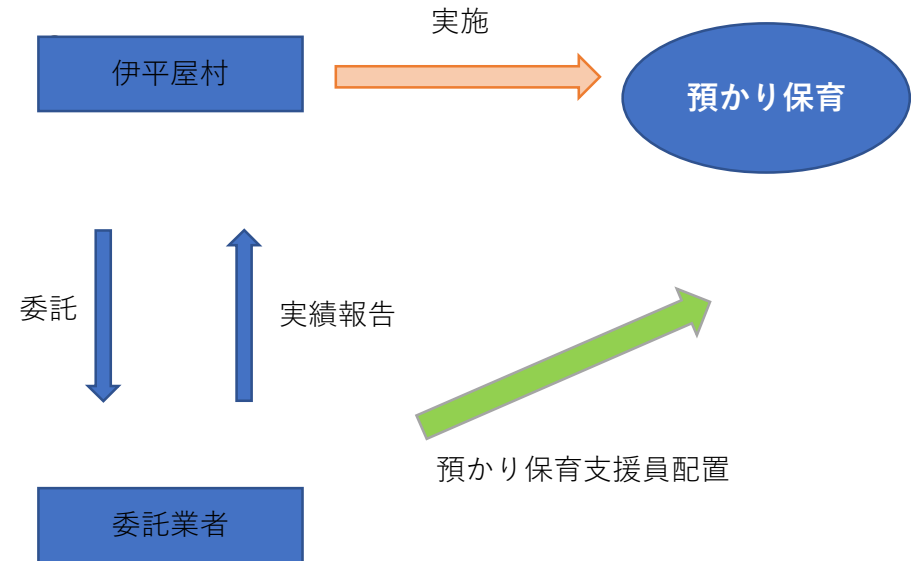
5 次総計の該当箇所

○ 第 4 章 島の未来は、教育がつくる 施策 2：子どもたちの安心・安全な居場所づくり及び地域との連携による学習環境の整備 ⑤子育て世代・共働き世帯への支援の充実

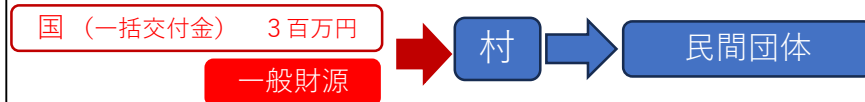
事業概要・目的

- 本事業は、委託契約を結び預かり保育支援員を配置し、伊平屋幼稚園に在籍する園児を対象に預かり保育を実施するものである。
- 保護者が安心して子どもを預けることができ、育児における負担感の軽減を図ることを目的とする。
- 本年度は在籍園児 9 名のうち、8 名が利用（5 月 1 日現在）。

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 保護者の育児における負担感の軽減。

前年度までの成果

- 預かり保育支援員を 1 名以上配置。
- 預かり保育園児 8 名利用。

事業名：伝統文化継承支援事業

予算額 14,500 千円（前年度：14,545 千円）

担当課：教育委員会

5 次総計の該当箇所

○第 4 章 島の未来は、教育がつくる 施策 5：文化芸術活動の推進 伝統文化の記録・保存事業及び村内外への発信事業

事業概要・目的

○本事業は、島への誇りと愛着を醸成し、次世代を担う健全な人材を育成するため、伝統文化、伝統芸能について、地域人材等との連携による課外講座の実施や保存会等の活動を支援するものである。

○本年度は伝統文化学習の講座 11 講座。合計 100 名が講座を受講。

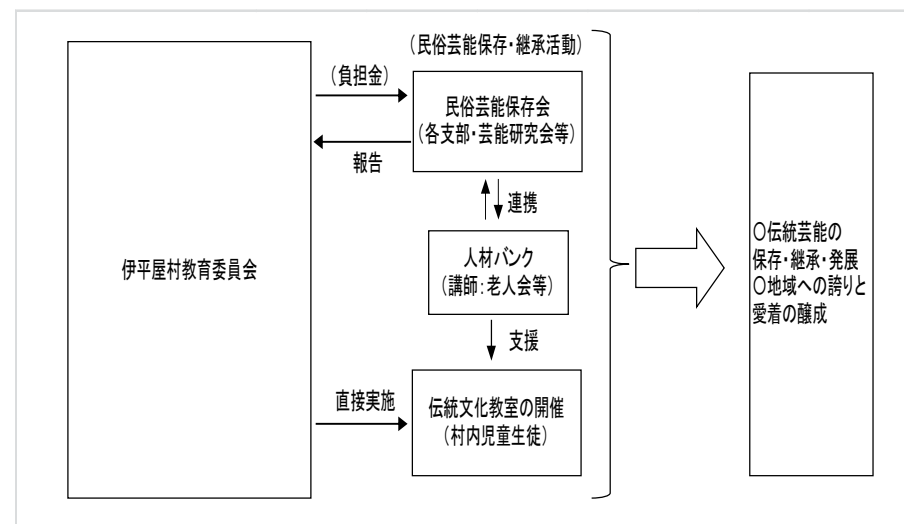
○各支部・団体への支援を実施。

◎伝統文化教室の開催（原則毎月第 3 水曜日）
9 講座以上 10 回（R5 年度）

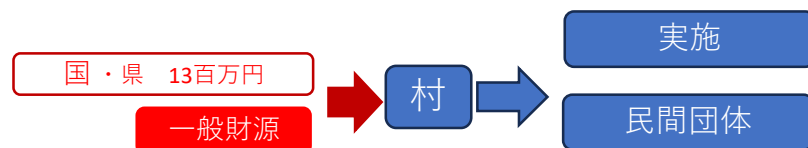
各支部・団体への支援（6 団体）

島外芸能公演開催（予定）

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 伝統芸能の保存・継承
- 地域への誇りと愛着の造成

前年度までの成果

- 伝統文化教室の開催（原則毎月第 3 水曜日）
- 各支部・団体への支援（6 団体）

事業名：特別教育支援員配置事業 予算額 36,838 千円（前年度：23,204 千円）

担当課：教育委員会

5 次総計の該当箇所

○第4章 島の未来は、教育がつくる 施策2：子どもたちの安心・安全な場所づくり及び地域との連携による学習環境の整備 すべての子どもたちが安心安全な学びを享受できる学習環境等の整備

事業概要・目的

【目的】

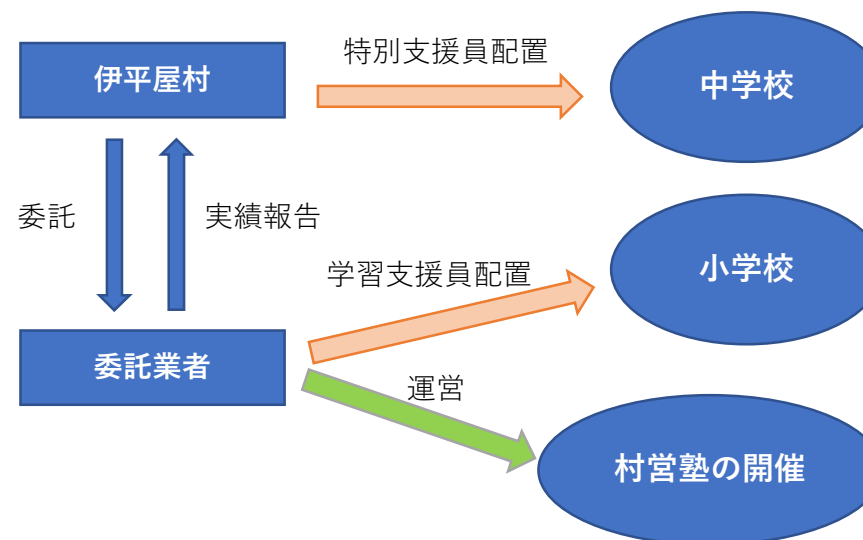
特別な支援を要する児童生徒に対応した支援を行うことで、学校生活や学習上の困難の改善を図るとともに、児童生徒の学力に応じた学習指導を行うことで、学力及び学習意欲の向上を図る。

【事業概要】

本事業では、村内の幼・小・中学校への特別支援員の配置や、小・中学校へ3名の学習支援員を配置して個々の能力に応じたきめ細かな学習支援活動を行う。

1. 特別支援員の配置（中学校 1名）
2. 学習支援員の配置（小学校 2名）
3. 放課後の学習支援（村営塾の開催） 6～3月（週5回）

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 個の学力に応じた学習指導
- 学力及び学習意欲の向上

前年度までの成果

- 特別支援対象となる児童生徒の保護者へアンケートを行った結果、学習支援員配置について満足度100%であった。
- 学力到達度テスト調査における県と本島との平均正当率の差については、中学校は目標に届かなかったものの、小学生においては、一定の成果が見受けられた。
小学校 -4.9（目標 -5.0ポイント以上） 中学校 -7.1（目標 -4.3ポイント以上）

5 次総計の該当箇所

○第 4 章 島の未来は、教育がつくる 施策 1：保育・幼児教育・学習教育の取組推進 英語学習の推進

事業概要・目的

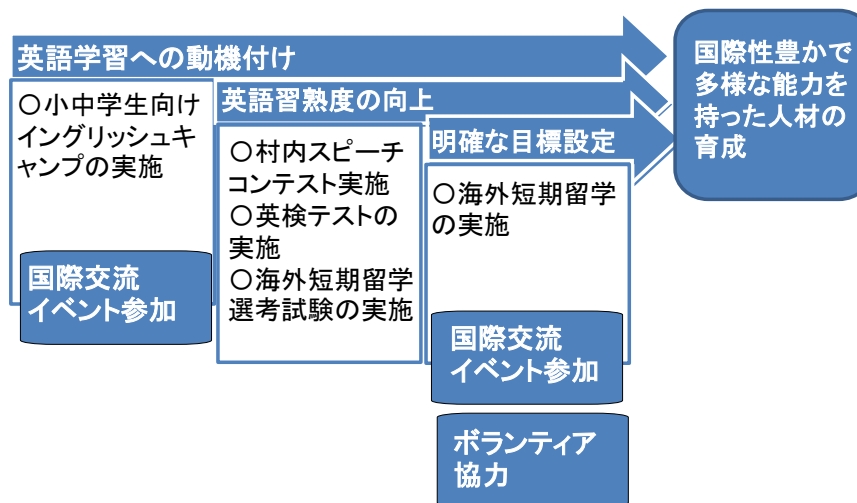
【目的】

グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材を育成するため、イングリッシュキャンプの開催による動機付けや、本村の中学生を海外に派遣し異文化を体験する機会を与える。また、イングリッシュキャンプでは英語でのコミュニケーションやスキットなど英語を使った発表機会を多く盛り込み、語学学習だけでなくコミュニケーション能力や表現力の向上を図ることを目的とする。

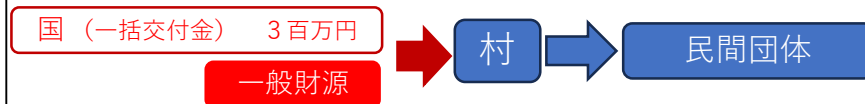
【事業概要】

- 1.村内小中学生を対象とし、外国人講師を招聘し夏休み期間中本島にてイングリッシュキャンプを行う。（約1週間）
- 2.村内中学生（英検3級取得者）を対象に、グローバル時代に適応できる国際豊かな人材育成を図るため、海外短期留学へ3名派遣する。（約3週間）

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- グローバルな時代に適応できる国際性豊かな人材の育成
- コミュニケーション能力や表現力の向上

前年度までの成果

- イングリッシュデイキャンプでは、部活動・他事業との兼ね合いで参加者は例年より減ったが9名の児童が参加
- 村内中学生2名を海外短期留学に派遣

事業名：児童生徒島外派遣等支援事業

予算額 5,718千円（前年度：5,801千円）

担当課：教育委員会

5次総計の該当箇所

○第4章 島の未来は、教育がつくる 施策2：子どもたちの安心・安全な場所づくり及び地域との連携による学習環境の整備
子育て世代・共働き世帯への支援の充実

事業概要・目的

【目的】

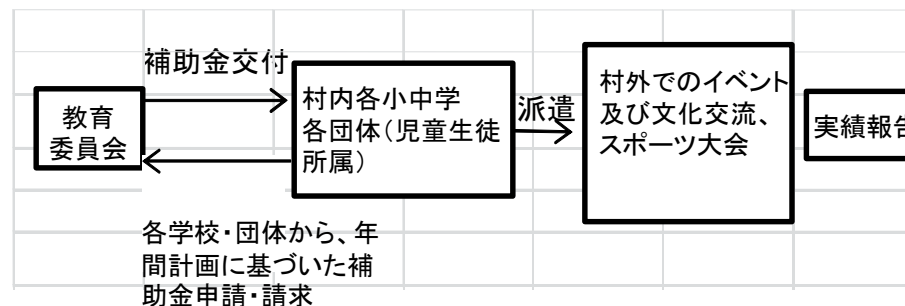
村外で実施されるスポーツ大会及び交流や文化交流等各種教育活動に積極的に参加し、離島の小規模校では経験できない他地域校の児童生徒等との交流や各種スポーツ大会、交流等による児童生徒の意識の向上やスポーツの技術向上等様々な面で離島の抱える教育的なハンディを克服する。

【事業概要】

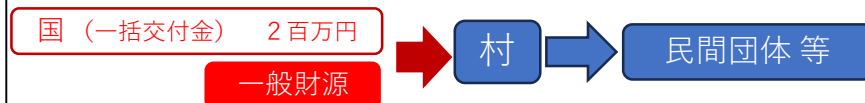
島外で開催されるスポーツ大会や文化事業発表会（県大会や全国大会等）に参加する児童生徒に対し、航空・船舶運賃等の補助を行う。

事業イメージ・具体例

○村内小中学生等が、村外で実施されるイベントやスポーツ大会、交流等について、他地域の小中学生とのコミュニケーションづくりや各種スポーツ技術向上とメンタル面の確立を目的に参加する派遣費について助成を行う。



資金の流れ



期待される効果

○島外の人との競争や交流の機会を増やすことで児童生徒に広い視野を持たせる。

前年度までの成果

○島外への児童生徒の派遣回数が増えた。スポーツ面においては、地区選抜選手が出るなど、取り組みの成果が具体化し、児童生徒の成長が見られ始めた。また、アンケート結果（保護者満足度96.4%）からも分かるように、昨年度以上に保護者の負担軽減に寄与していると考えられる。

R5派遣実績→小学生：9回 延べ人数93名 426千円 中学生：19回 延べ人数147名 1,069千円

事業名：社会教育推進事業 予算額 5,828 千円（前年度：11,607 千円）

担当課：教育委員会

5 次総計の該当箇所

○第4章 島の未来は、教育がつくる 施策3：生涯学習の充実及び社会教育の推進、各種交流事業の促進
社会教育分野における集落コーディネーターの育成・配置と持続可能な地域社会の形成に向けた地域人材の育成

事業概要・目的

【目的】

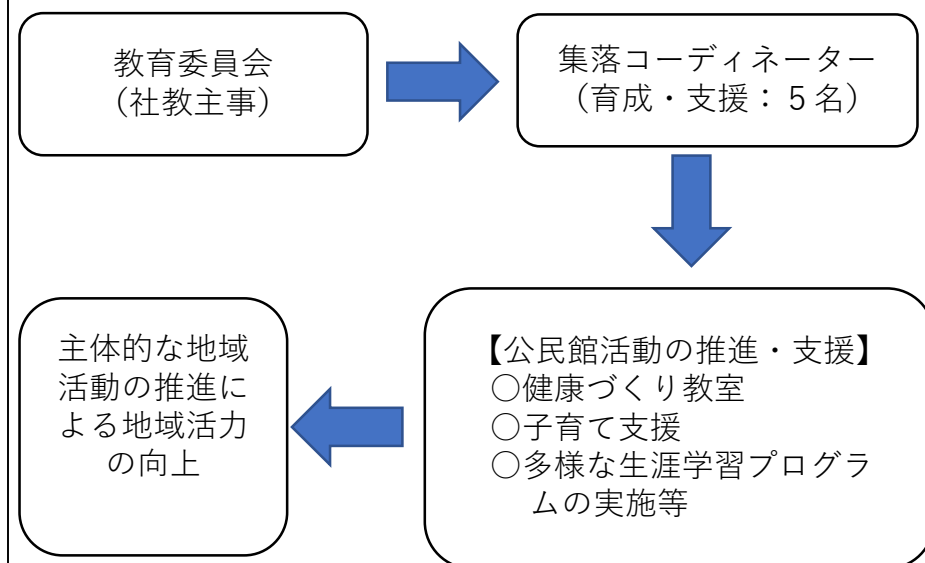
少子高齢化が進む本村において、人口減少も相まって地域活力が低下していることから、各集落の公民館機能の維持・拡充を図り、子育てや見守り生きがいきづくり等の拠点として共助の仕組みづくりを構築する。

【事業概要】

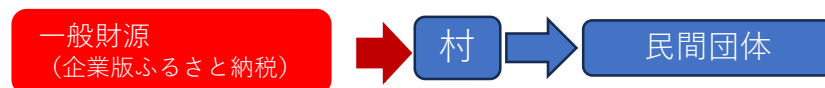
村内各集落の公民館を拠点とした地域活性化を推進するため、集落コーディネーターを配置し、健康づくりや生きがいきづくり、子育て支援等多様な支援プログラムを推進する。

1. 集落コーディネーターの配置・育成
2. 集落コーディネーター主催事業の開催（生涯学習講座等）

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

○各集落公民館の拠点機能充実と地域活力の向上

前年度までの成果

- 各5集落への集落コーディネーターの配置が出来ず、2名のみの配置となった。
- 前半はコロナ禍の状況にあり公民館活動が実施できておらず、活動自体が浸透していない。

事業名： 広域圏をつなぐ風土・環境の調査制作事業 予算額 13,600 千円（前年度：10,000 千円）担当課：教育委員会

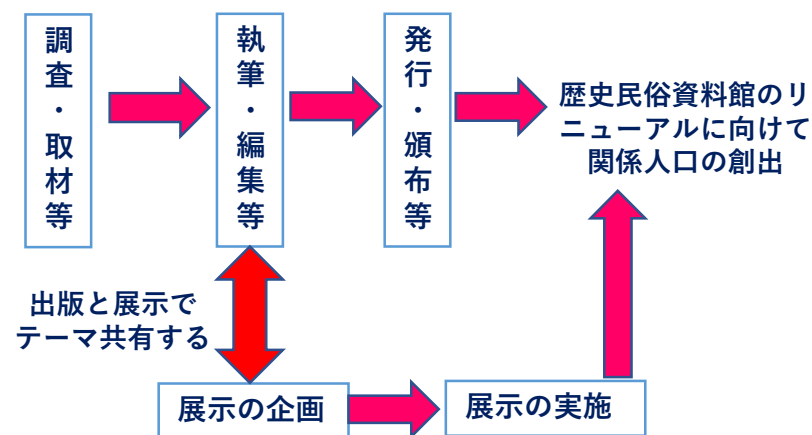
5 次総計の該当箇所

○第 4 章 島の未来は、教育がつくる 施策 4：文化施設の充実と歴史民俗資料等の保存活用

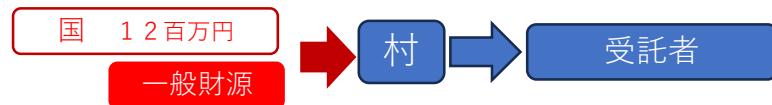
事業概要・目的

- 本業務は、タブロイド新聞の出版を通して歴史民俗資料館の関係人口を創出する目的で実施する。
- 歴史民俗資料館の情報発信業務として位置づけており、将来の展示リニューアルに向けた準備として、刊行物（タブロイド新聞）を全国に配布する。

事業イメージ・具体例



資金の流れ



期待される効果

- 伊平屋村の知名度の向上
- 地域への誇りと愛着の造成

前年度までの成果

- 伊平屋発タブロイド新聞の特別号を発行。各市町村関係団体へ送付。（2800部発行）

事業名：地域おこし協力隊支援事業 予算額：20,150千円（前年度13,482千円） 担当課：移住定住促進室

5次総計の該当箇所

○第4章 共創・協働のむらづくり 施策2：地域の“縮小”から“縮充”へ 地域おこし協力隊の採用・配置

事業概要・目的

○本事業は、地域力の創造・地方の再生に向け、地域おこし協力隊を公募し、外部の人の視座による新たな発想、アイデアで本村の活性化を図るとともに、新たな仕事の創出等による協力隊卒業後の定住に繋げることで、本村の活性化や人口減少に歯止めをかけることを狙って実施するものである。

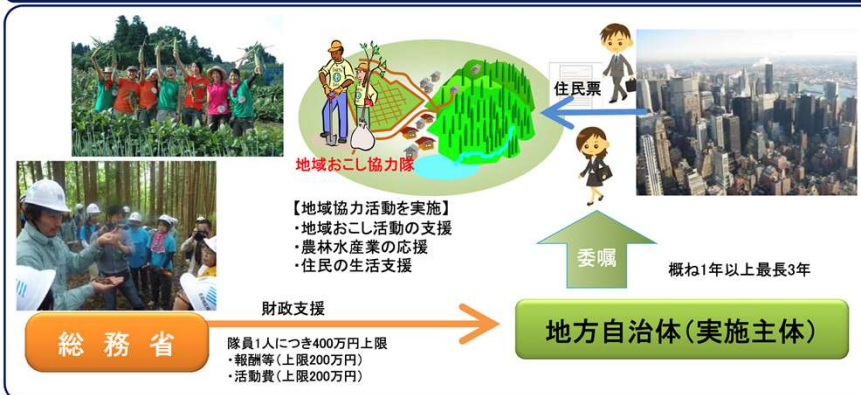
○本年度は2名の新隊員を採用。合計4名の隊員が活動中

◎地域おこし協力隊の活動例

地域社会の発展や地域資源の活用の支援
地域の課題を解決するための活動
地域振興プランの策定や実施
観光資源の開発
地域の農業や産業の支援
地域に必要なプロジェクトや業務
地域の魅力発見と発信（PR活動）
地域に人を呼び込むための広報活動

事業イメージ・具体例

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移し、地域に住み込んで「地域協力活動」を実施



出所：内閣府WebSite

資金の流れ

一般財源（高年度に交付税で補填）



村



協力隊員

期待される効果

- 新たな目線による新たなアイデアで地域活性化
- 地域の資源、文化等に対する新たな価値への気づき
- 隊員(若者)の活動による地域の熱量のアップ

前年度までの成果

- 協力隊員3名採用、現在2名が精力的に活動中（年度途中にて1名リタイア）
- 情報発信の強化 インスタ開設：フォロワー千名超
- イベントの開催（マルシェ等）